

① 「ほっとこ」は、ある事情により倉吉を

去る事になつた親子が残した一言。「ほっとこできる場所が欲しかった」がきこわけていた。だれもがほっとこできる居場所はここですよ。から

「こども食堂とみんなの居場所 ほっとここ」が誕生しました。

児童憲章の前文に「児童は人として尊ばれる。児童はよい環境のなかで育てられる。と掲げられています。しかし、子ども

達とりまく社会の現状は如何でしょうか。明倫地域においても、学校・児童館・町などからもさまざまな課題がみられます。

下校時には、親不在の為に利用者数が多く、特に夏休み等長期休暇は通常の2倍の利用者数となります。

地域に暮り込めず孤立化している家庭もあります。その背景には貧困・育児放棄などの劣悪な環境の中に置かれ、食生活の貧困により健康状態も悪化、学習意欲も低下し、友達間ともずれが生じます。

②

どこにも居場所を失い、自分をも見失い

自己肯定感がもてなくなり、やがては社会の中
でも希望や誇りを持って生きて行く事が難しく
なります。

また、高齢者においては、独居の人や、高齢者
世帯などの要援護の割合が我が町においても
住民の50%を示め高くなっています。その事により
孤食・引き込み・栄養不足・認知症等の
健康不安をかかえています。

食事や学習支援を通して多世代との交流
は、居場所づくりを行う事により、地域の中
社会性を美し、「生きる力」を身につけた子ども
達を育てていくしくみ、同じように高齢者が
「生きる目標(生きがい)」をみつける場とします。

先ず事業実現・継続する為には、しっかりと
体制づくりの必要から、運営主体となる「実行委
員会を立ち上げました。

「ボランティアだったから協力もさせて下さい。」との嬉しい
言葉もいただきました。地域内外から参加をいただきました。

協力者には、様々なスキルを持った人が不可欠です。

20代から80代まで、看護師・管理栄養士・保育士

教員と、広範囲の協力を得る事が出来ました。

また、地域の子ども会・自治会・老人クラブ等の協力の

了解も得、子ども会では、自分達に何が出来るかも

考えてくましました。食料提供は当初は地元スーパー、

などの団体が協力。体制を整えての出発でしたが

現在は個人も含め多くの方と企業・助成もあり

多種多様に繋がっており協力をあおぞしております。

町では毎週火曜日に認知症予防教室を開いております

同日に移動販売車も入水しておりま近所の人達にも

重宝がられています。教室継続10年になり、92才を

筆頭に平均年齢は80を越えており、以前は引き込み

りや、こうつと診断された人が今や地域の催しに参加

文化展・運動会等どんどん社会進出される事で心身

ともに健康の維持が出来る様です。

ほっとこ開催時毎回弁護士さんによる困り事無料

相談を行っております。若い層の相談、高齢者の

相談とそれぞれ内容の違はあるものの弁護士さんのアド

バイスに解決策を見出し後に笑顔での「ほっとこ」にお礼の

言葉をお願いいたします。人生と未来に向けて一歩ずつ進んで

行く気持ちになりました。」との言葉もいただきます。

ほっとここは、夜・食・住を何かしらの方法で

取り入れております。皆さんの利用可能な部屋は、

大・小合わせて6部屋とテラスです。和洋折衷、

絵画コーナー、高天井の部屋、日本文化(茶室、

の部屋、どうぞの椅子の部屋等、非日常の空間を

体感する事ができます。中庭には小鳥や花々による

四季に出会う事ができます。仕事の休み時間一人で来て

一日の疲れをいやして帰途に着かれる人もあります。小部屋

がある由、高齢者から風・雨時自主防災の範囲内で

利用したいとの要望があり、不安を払拭する為にも開放をし

て一役かっています。小学校・中学校・高等学校の生徒・

保護者の人権に関する学習の場所、障がい者家族の

交流の場所としても活用して、家族間がとてと和やかな関係性

が保たれているようにも思えます。また部屋が確保できる事で

学習支援も可能となり、コロナ禍においては王地域から、

12人の小学生・中学生、高校生と受け入れそれぞれに

学力が上がったと保護者から喜ぶ声も聞かれています。

コロナ禍だれもが活動範囲の狭まる中、ひとり親の子ども

や、仕事帰りを待つ子ども、居場所づくり、学習支援

見守りを行うに当り、感染予防の環境を整える為

⑤

県の認証証店をとったり、安心対策を整え

より多くのみなさんを受け入れる事への出来たる

環境作りの為に助成金の申請をし活用させて

いただいております。若者にも向けたインスタグラム

やフェイスブック等のSNSを活用し、もっと必要とする

多くの方に啓発する。手作りの温かい食事と

みんなと団み一緒に学習する場所を作る事に

よって色々な人とふれあい食事の楽しさを知り

親子で向き合う一時を味わい、出会う事で

さまざまなおもしろいがあり、いろいろな人がいて

いろいろな考え方があり、視野を広げ

て行き、自立し、^{生涯世をもち}社会に巣立って行く力を

ける事で将来の社会保障の負担を軽減できる。

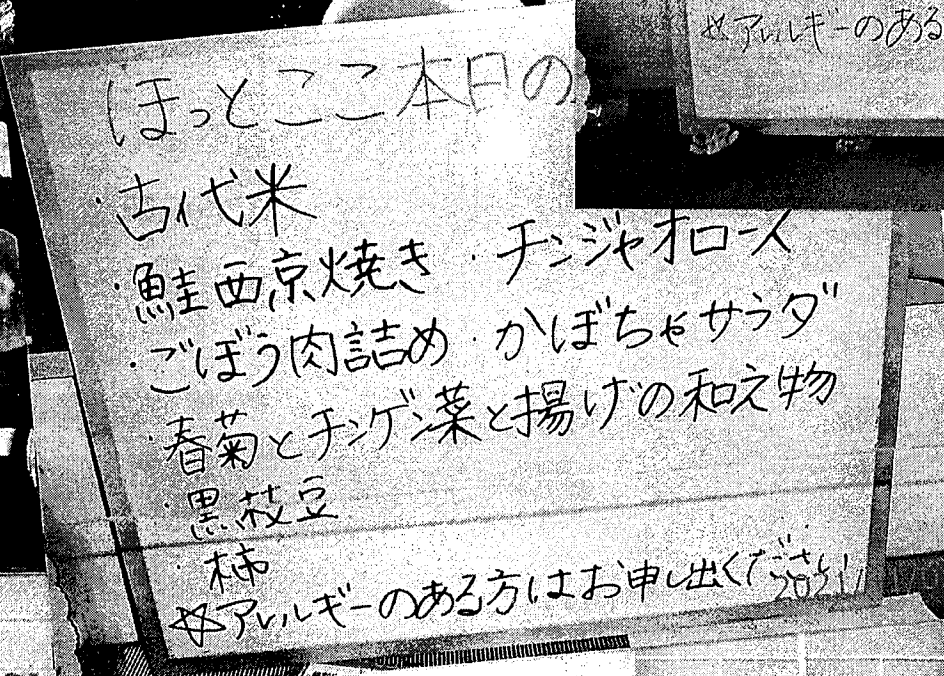
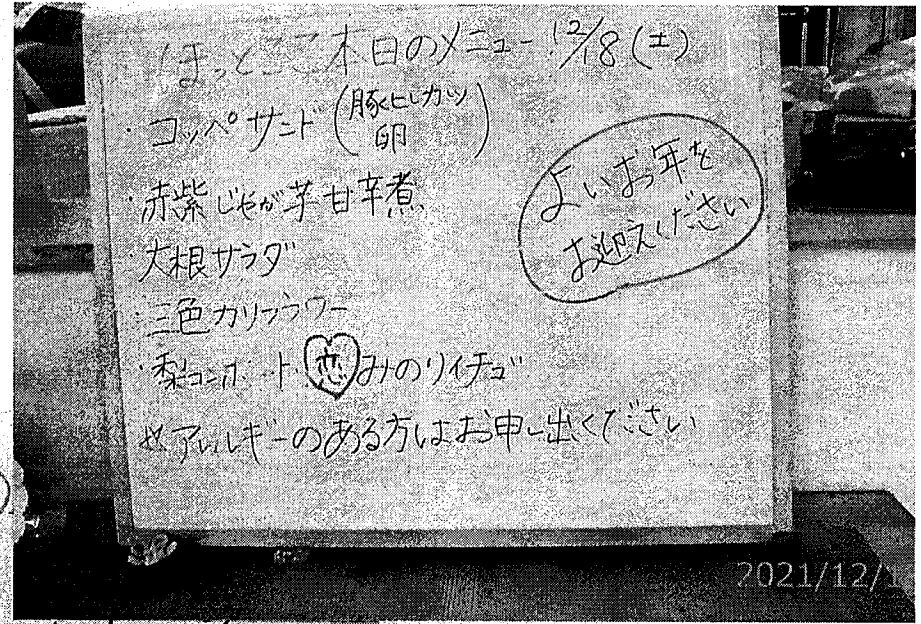
高齢者の健康の維持に貢献でき、医療費や

社会保険料の軽減と地域の活性化に寄与できる。

将来を担う子ども達を応援し、みんなが

元気な元気な町づくりにつなげたい。

⑥ 色々なグループのワークショップ・地域のイベント参加



6年生の人権学習 ↓



← 子どもの年頃り会



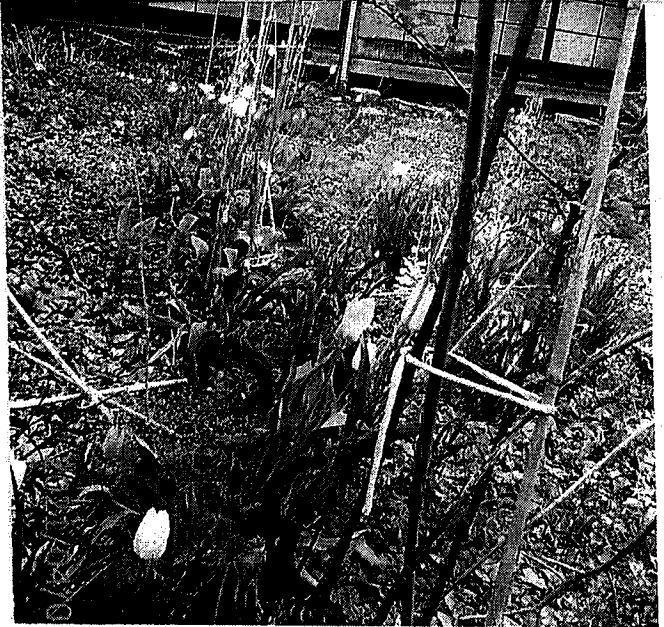
他町 子供会「さつまいも」後の会葬

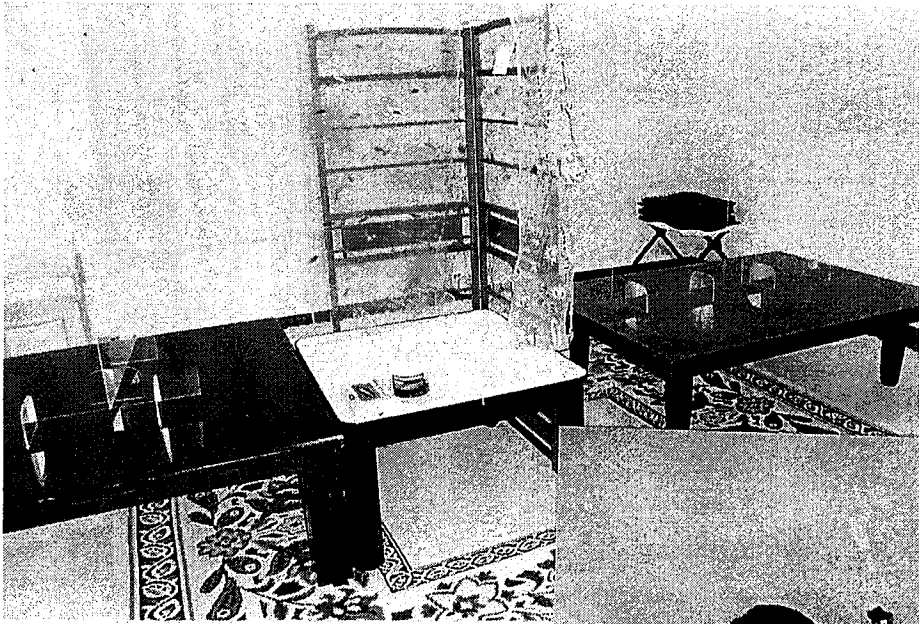


小学生「断た人けん」授業

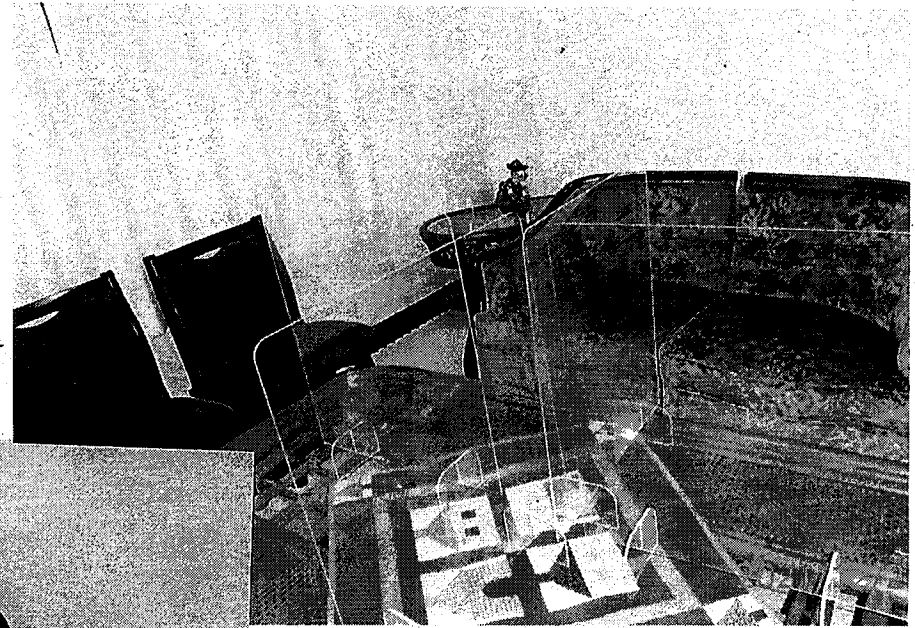


中庭前年度の子ども達
花(今年り)が200球植え





笑いの部屋 ←

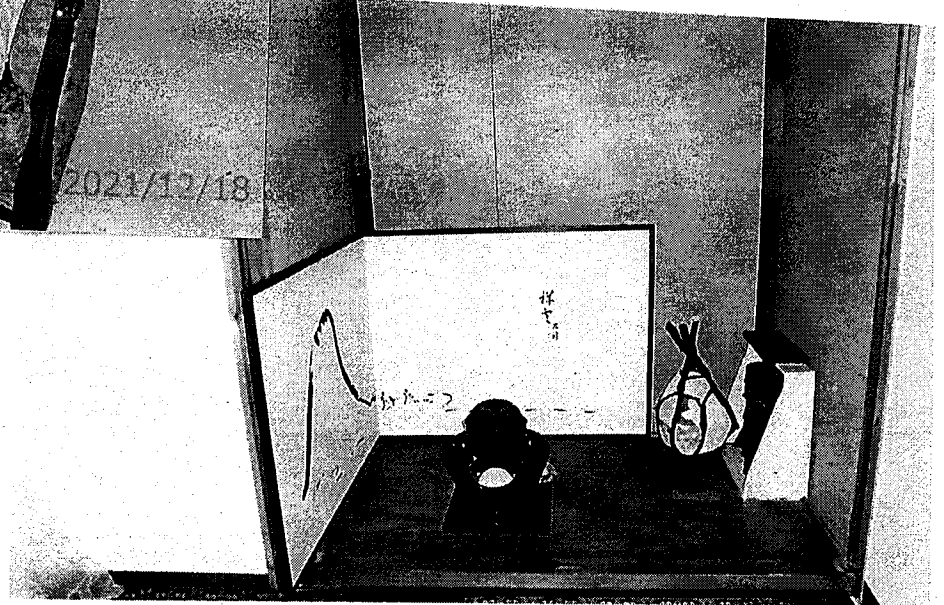
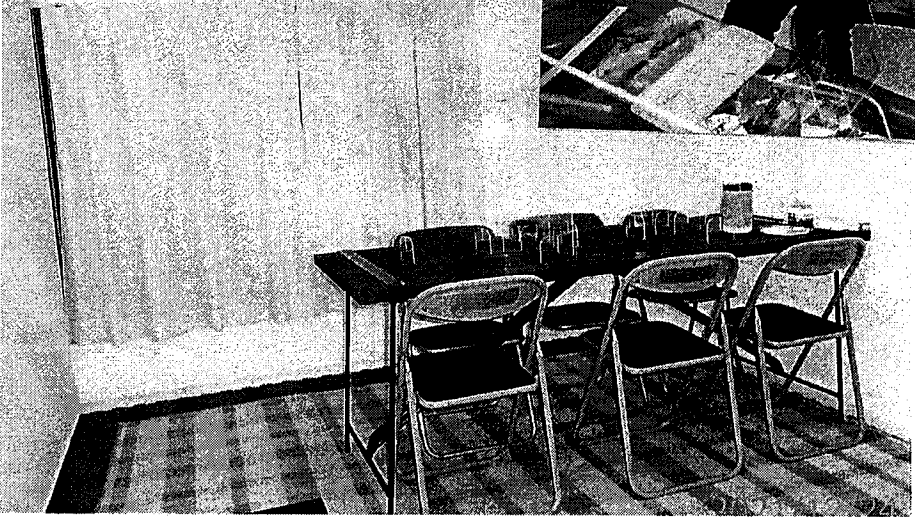


Eメールの部屋 →



困り事相談の部屋(備室) ↓

和室 ↓

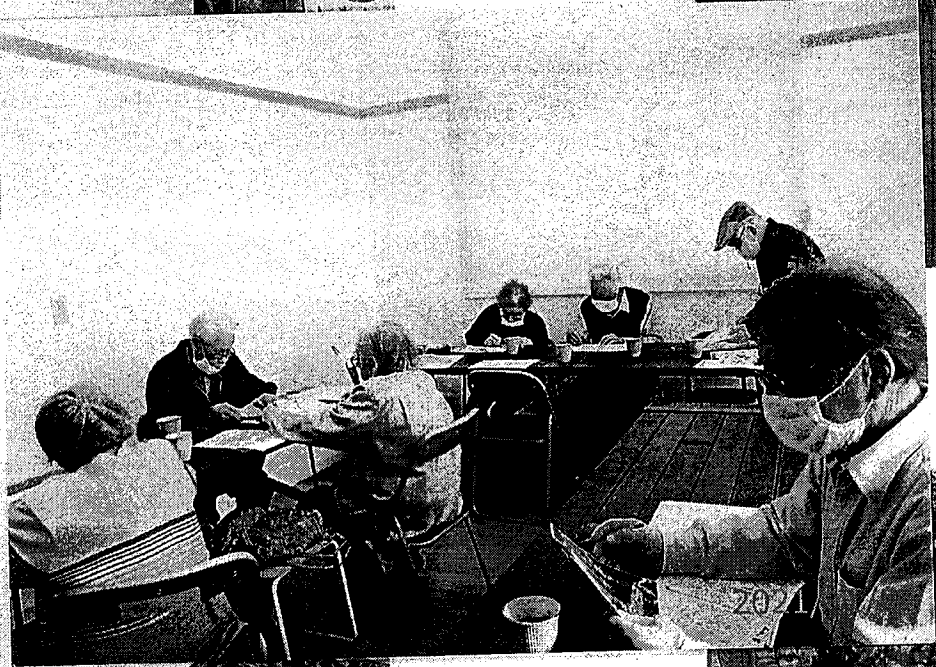


2021/12/18



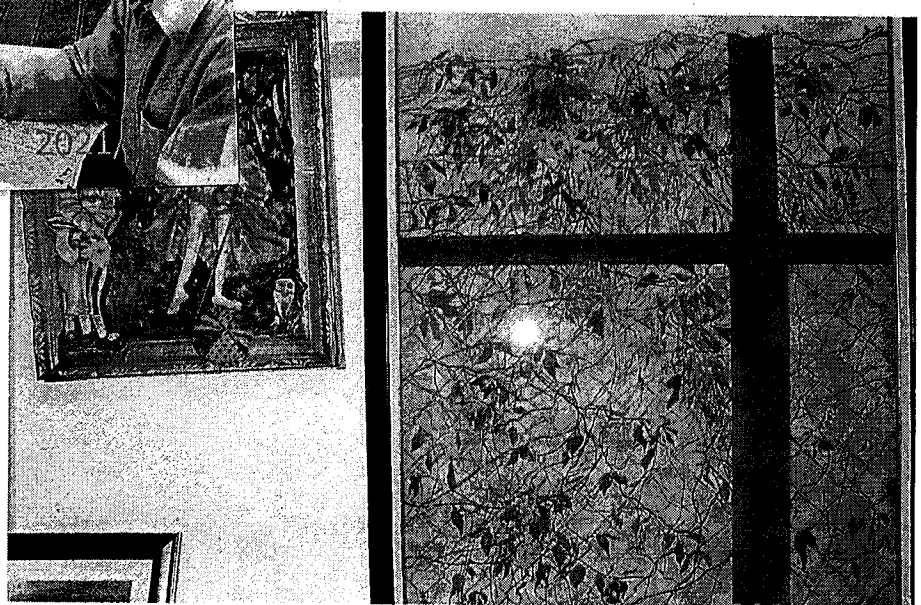
切り絵コーナー

版画コーナー



週一回認知症予防教室

絵画コーナー



週1回の移動販売車

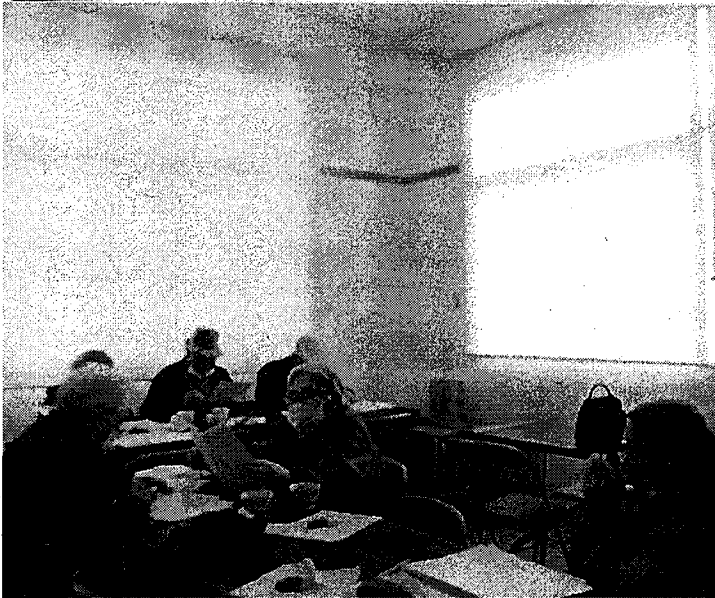


週1回の認知症予防教室



出席8人

お茶の時間(紅葉)前にお茶タイム





中庭の冬瓜



オーブンテラス

